

ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)
発行部数12万部・非売品
YAMATO WELFARE FOUNDATION

No.40

10月20日発行 2013 Autumn

「夢へのかけ橋 実践塾」が
いよいよスタート!
1年後3万円、
2年後5万円の給料に



今年度からヤマト福祉財団奨学生になった、奈良県立医科大学3年生の塩谷早紀子さん



東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金
助成先を訪ねて

故郷の町を本来の姿に
これからの形に p04

私たちの賛助会費が活かされています 奨学生レポート Vol.7
自分だから分かる痛みがある。
患者に寄り添えるドクターを目指して p06

私たちの賛助会費が活かされています
■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol.17(群馬県前橋市)
枝豆の脱莢機を導入して、出荷量が2倍以上アップ! p08

この街で一緒に生きていく 障がい者のクロネコメール便配達
仕事に参加した。その気持ちを、持ち帰って欲しくて。 p12

夢へのかけ橋 プロジェクト

経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

「夢へのかけ橋 実践塾」が
いよいよスタート!

1年後3万円、 2年後5万円の給料に

9月27・28日、晴海グランドホテルで「夢へのかけ橋 実践塾」の開講式・第1回合同研修会を開催しました。三つの実践塾の塾生となった計59の施設は「利用者さんの給料を増額し、夢をかなえる」その一歩を踏み出しました。

すぐ変える、なんでも変える
そんな強い決意が必要

「利用者さんの幸せ度は、お給料の高さに比例する。だからこそ経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して、みなさんはここに集まったと思います」。開講式で、有富理事長は59施設の塾生たちを前に、その参加目的を改めて確認しました。



5万円です。この数字を達成するために、みなさんには商人としての力を身につけてほしいと思います。例えば、自分たちにつけるものだけをつかって売るという考えでは売り上げは伸びません。お客様が買いたくなる商品とはなにか。だれに、どうやって売っていくのかを考えていきましよう。実践塾でそのヒントを学べますが、実際にどう改善していくかは自分で考え、実行していかなければなりません。大事なのはすぐに変える、なんでも変える実行力です」と話しました。

続いて3人の塾長が、それぞれの塾の方針を発表（左頁参照）。これから約2年間で自分たちの施設を変革していく具体的な取り組みポイントを伝えました。

**利用者さんの給料を上げる
牽引役となつてほしい**
次に、東京学芸大学の菅野教授

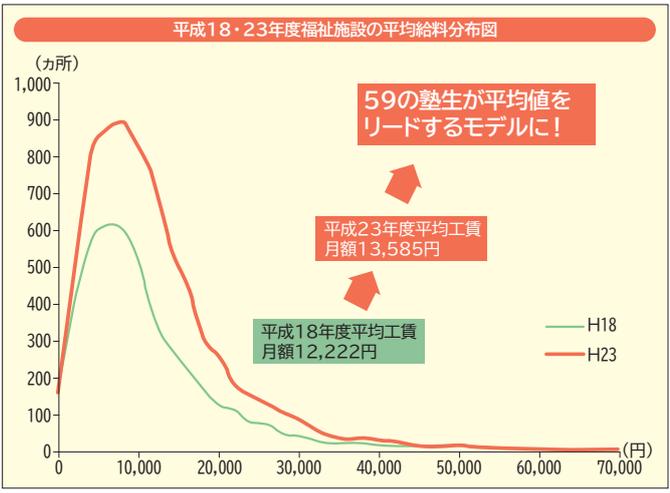


力の向上について講演がありました。

「各人の適正能力に合う作業を考える、より多くの作業を行えるように能力を伸ばす、さらに作業から仕事へと意識を高めていく。そんな指導的支援が、福祉施設の職員に求められています」。さらに、利用者さんにとってわかりやすく、生産性の高い働く環境をつくることも、職員の大切な役目だと話されました。

続いて武田塾長が、経営の根底となる管理会計のあり方について解説。今後、三つの塾で共通して学ぶ販売策定とPDCAについて説明しながら、きちんとした数字を算出できなければ事業計画は成り立たないことを強く伝えました。その後は、塾ごとに結団式を行い、初日を終えました。

2日目は、朝から三つの塾で分科会を開き、塾生たちが立案した事業プランの検討を行いました。塾生たちは、塾長より会計・賃金・収支収入の計算や管理の仕方について指導を受け、自分たちの数字、販売計画に問題があることを自覚。次の合同研修会までに、もう一度計画を見直すことが宿題となりました。



最後に有富理事長は、全国の福祉施設の平均給料のグラフを指し「みなさんにはこのグラフの山をプラスに動かしていく良いモデルとなつてほしい」とエールを贈りました。

きちんと決まった給料を払える施設へ 抜本的改革から進めていく 亀井塾



塾長
社会福祉法人ひびき福祉会
理事長 亀井 勝氏

「これからは工賃と言う言葉を使わずに給料と言うようにしてほしい」。そんな言葉から亀井塾長の話ははじまりました。

上がった利益をその場で分配するのではなく、賃金規定に則りきちんと決められた金額を給料として支払っていきける施設へ。それには事業所幹部を筆頭に、職員全員の意識を変える抜本改革がまず必要だと話します。

「これからのなをしていくのか、これをみんなで共有して進めていけるようにしなければ、この改革は成功しません」。その上で、原価から収入・支出、利益の計算までをきちんと行って、数値目標を立てられるようにする。さらに、マーケティングをベースに接客から集客活動までを連動する販路拡大や顧客開拓、商品開発などを具体的に計画・実践できるようにしていく。これらを、今後の学びのポイントとしました。

「自分たちの施設の現状をしっかりと把握し、今後どうしていきたいか、どうすれば良くなるか、いまよりも良いものをいかにたくさん創り出せるか。そんな勉強をしていきましよう」と塾生に呼びかけています。



給料アップは支援力のバロメーターと捉えてほしい 武田塾



塾長
社会福祉法人はらから福祉会
理事長 武田 元氏

「事業経営と福祉支援を別物と考える方がいますが、それは違います。給料アップは、支援力のバロメーターなのです」と武田塾長は話します。そして「高い給料を実現するために、これからは当たり前のことを、きちんと実現してほしい」と呼びかけました。

武田塾長の話す「当たり前のこと」とは、大きく二つです。一つは、人間は誰もが働かなければ生きていけない。これは障がいの有無に関係なく人間として当たり前のことであり、それを提供するものは福祉に携わる者の大切な仕事だということ。そして、もう一つが、経営者として当たり前の仕事を果たすことです。

「会計・賃金の計算、PDCAの徹底など事業を経営する上で当然のことを実行し、1年後3万円、2年後5万円を実現していきましょう」と武田塾長。ただしきちんと実行し続けることは容易ではありません。

「今後は面倒なこと、知らないことがたくさん出てきますが、すべて自分で調べ、計算していかなければなりません。なんのために、だれのために、なにを目指していくのか、そこをもう一度、職員みんなで確認して臨んでほしいと思います」。



やらないことの言い訳をしない 言い逃れをしない、それが約束 新堂塾



塾長
社会福祉法人武蔵野千川福祉会
常務理事
チャレンジャー
施設長 新堂 薫氏

新堂塾で学ぶのは、生産効率を高めるライン化の実現です。「ライン化とは、いままで一人で行ってた仕事を、いくつかの工程に分け、複数人で分担作業することで生産性を高め、売り上げを伸ばしていく方法です」と新堂さん。それぞれの利用者さんが能力を発揮できる工程に上手く分けること、それらがスムーズに流れるようにすることなどがポイントとなります。これを成功させるには働く環境の整備も必要です。

「職員がいなくても、利用者さんが、なにを、どこで、いつまでに行うのかなどが、明確にわかること。また、動きやすい、連携しやすい環境を整えることが大切です。こうした改善を各施設の現場を視察しながら、具体的に指摘していこうと思います」と新堂塾長。さらに「以前、導線を良くするためイスを動かしてはと指摘すると、みんなで話し合えないとできないと言われたことがあります。そんな変な言い訳、言い逃れをするようでは改善は進みません。この後には営業マナーや業者へのアプローチなど、売り上げアップの次の勉強も待っています。なんでも変える、すぐやる、積極的な姿勢を忘れないでほしいですね」。



東日本大震災 生活・
産業基盤復興再生募金

助成先を訪ねて



故郷の町を本来の姿に これからの形に

震災は、地域が大切に築き上げてきた地場産業そのものに大きな傷跡を残しました。「本来の姿を取り戻し、町が再生する新たな道を築きたい」。一つまたひとつ復興の形が整うとともに、その足取りはより力強くなっています。



【製氷・貯氷施設回復支援事業】

(第3次助成) 岩手県

製氷・貯氷施設の完成は 洋野町にとって 復興の希望の光



新施設は津波対策として機械室を2階に設置、環境負荷の低減を目的に自然冷媒を採用している

震災で体力を失った漁協の
代わりに町で施設を再建

「洋野町の八木魚市場は、この地区の水産物の流通を担っています。津波で製氷施設が破壊され、多くの外来船が他港へ流れていきました。昨年の入港は、多い時でも5

隻程度でした。それが新施設の完成で、今年初のイカ釣り外来船の入港は、初日が7隻、翌日は14隻と順調に進んでいます」と洋野町水産商工課水産振興係の一郷敏宏さんは、うれしそうに話します。

岩手県沿岸北部にある洋野町は、「つくり育てる漁業」の象徴である



震災前より4割以上多い72tの製氷が可能

ウニ漁が盛んです。この町を10mを超える津波が襲いました。市場、ウニ種苗施設、そして種市南漁業協同組合が運営する製氷・貯氷施設が壊滅的な被害を受けてしまいました。

昨年4月、洋野町は八木北港に町営魚市場を再開しました。しかし、製氷・貯氷施設の再建の目処は立っていません。震災で体力を失った漁協が自ら製氷・貯氷施設を



完成した製氷施設で竣工の挨拶する水上町長

再建することは困難でした。

「十分な氷がなければ安心して水揚げが行えないため、町営で新しい製氷・貯氷施設を建設することにしたのです。この時、岩手県と洋野町の負担分の2/9である2億3183万円を助成金でカバーいただき、昨年11月に着工しました。例年以上の積雪などで工事の遅れが懸念されましたが、夏イカ漁や秋サケ漁の前に完成させることができ、ほっとしています。」

安心して外来船を誘致できる
十分な製氷能力を確保

今年7月25日に行われた竣工式で、洋野町の水上信宏町長は「製氷施設の完成は大きな喜びであると同時に、震災復興の希望の光です。本町の水産振興を一層推進し、震災からの復興をさらに加速させてまいります」と挨拶しました。

新施設の製氷能力は、日産約72t(旧施設約50t)、閑散期には日産約36tと需要に合わせた製氷が可能。また、貯氷能力は約300t(旧施設約1000t)と減少させ、製氷と貯氷の量を効率的に調整することで、ランニングコストの軽減を図ることもできます。

「漁協では大間まで足を運び営業するなど外来船の誘致に頑張っています。当面の目標は、被災前の出荷数量年間5〜6000tです。また、近年低迷している本町の主要魚種である秋サケの豊漁にも大

※外来船とは、他の漁港の船。地元船だけではなく外来船が多く入港することで多くの水揚げが期待できる。

きな期待を寄せています。ウニ漁の生産高についても昨々が震災前の50%弱だったのに対し、今年は70〜80%くらいに回復しそうです。仮設のウニ種苗施設も完成し、新たに100万個のウニ種苗を放流しました。獲れるのは4年ほど先ですが、つくり育てる漁業も徐々にもとの姿を取り戻しつつあります。

みんなでやれることをやっているこう、と一郷さんたちは洋野町の水産業復旧に心を一つに頑張っています。



製氷の出荷式も行われた

【地域農業再生基幹施設緊急整備事業】

(第4次助成) **福島県東西しらかわ農業協同組合**

**東部に続き
西部共同農業倉庫も完成
地域復興の
起爆剤としたい**



●低温農業倉庫/建物1,216.29㎡、建築面積1,304.83㎡、米の標準収容量28,000俵
●矢吹中央支店/建築面積1,973.05㎡(直売所、購買店舗、物品倉庫3施設含め)

**二つの農業倉庫を両輪に
農業再生に動きはじめる**

東西しらかわ農業協同組合が管理する五つの農業倉庫は、震災ですべて損壊してしまいました。地域農業の復旧に農業倉庫は必要で

あり、点在していた倉庫を東西2カ所に統合することで、農産物物流の合理化も図れると、助成を申請しました。昨年9月、一足早く東部共同農業倉庫が完成。従来の常温の石蔵倉庫は、季節により保管場所を移動しなければならま



地元ブランド米「みりよく満点」の看板が目印の直売所

せんでしたが、低温管理できる新しい農業倉庫なら、その労力も軽減できます。標準収容量2万2000俵の倉庫は、秋に収穫された新米で満杯となりました。

そして今年7月31日、同様の機能を持つ西部共同農業倉庫が完成。同時に竣工したJA東西しらかわ矢吹中央支店、西部管農センター施設とともに竣工式が行われました。当日はあいにくの大雨でしたが、雨音に負けない力強い声で、鈴木昭雄代表理事組合長が挨拶。今日、こうして農業復興の起爆剤たる矢吹中央支店・西部共同農業倉庫ができたことはこの上のない喜びであり、この施設が農業だけでなくどまらず地域復興のシンボルとなるべく邁進してまいります」と話しました。

8月12日には矢吹中央支店・西部管農センター施設・農産物直売所の開所式も開催。新鮮な地元農産物を求める多くの方が集まり大盛況となりました。幹線道路が交

差する好アクセスな場所に建設された施設は、事務所の他に農産物直売所、購買店舗、物品倉庫を備えた複合施設として、地域の農業生産者の新たな活動・交流拠点として機能します。



開所式は地元の新鮮な農産物を求める人たちで大盛況に

**特定非営利法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
(第3次助成) 【相馬広域こころのケアセンター:なごみの新設事業】**

**被災地のメンタルヘルスケア推進へ
現場対応力を高める体制をつくる**



新事務所



広々とした空間で作業効率アップ

**メンタルクリニックなごみに
併設して新事務所も完成**

福島第一原発事故に伴う警戒区域や緊急時避難準備区域に該当した相双地域では、多くの方が避難所・仮設住宅での生活をやむなくされ、そのストレスは深刻な問題となりました。中でも精神障がい者さんへの対応は急を要し

ます。そこでNPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会は、この助成で2012年1月に、精神科医療システム『相馬広域こころのケアセンター:なごみ』を開設。メンタルクリニックなごみと連携しケアを進めるとともに、避難所や仮設住宅などに出向く訪問チームを作り、アウトリーチ(現場出張サービス)活動も続けています。

さらに、今年7月には新しい活動の拠点となる事務所をメンタルクリニックなごみと並んで建設しました。

「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会では、精神障がい者の地域生活支援の充実を図るため、来年度に訪問看護ステーションの開設と、相談支援事業の受託を計画しています。これらを支える新拠点がこの新事務所です」と大川貴子理事長。

ここには、ケア会議も行えるスペースもあり、スタッフはアイデアを出し合いながら、活動の幅を拡大してこうとしています。

学びごとが愉しいから、

実現したい夢があるから…。

理想を持って、将来を切り拓こうとしている
奨学生のみなさんをキャンパスに訪ねます。

私たちの賛助会費が活かされています

奨学生レポート

Vol.7

障がい者奨学金制度
障がいのある大学生を支援する目的で、当財団は奨学金を受け付けています。審査のうえ、35名の方に年間60万円(返済不要)の奨学金を助成しています。

塩谷早紀子さん ▼奈良県立医科大学医学部医学科3年

患者に寄り添えるドクター を目指して

自分だから分かる
痛みがある。



自己免疫疾患から脊髄炎を患い、中学3年で突然、車いすの生活に。やがて、自らの経験を通じて、医学の道へ進むことを決意。夢への第一歩として現在は奈良県立医科大学に進学し日々、勉学に励むかたわら、部活では弓道部に所属し、女子部員をまとめる大役にも挑戦している。

■自らも支える人へ

まさか自分が医師を目指すようになるとは思いもしていなかったという塩谷早紀子さん。いまは3年生で、一般的な疾患の病理、病態、治療法について学んでいるところだ。

「15歳のときに足が突然動かなくなり、医師にもう歩くことはできないと告げられたときの衝撃は言葉にできません」

外敵から身を守るための免疫が、自らの身体を攻撃してしまいう自己免疫疾患。詳しい原因は

解明されておらず、今も立ち上がる以上のことは困難です。

陸上競技に親しみ、足にも自信があった塩谷さんは、突然の出来事に戸惑い、毎日のように涙したと言います。

「でも、泣いている私のそばを離れずに耳を傾けてくれた看護師さんや、気が紛れるよういろいろと話し、励ましてくれた医師やPTの先生方にとっても救われました」

こうした経験が時とともに塩谷さんの中で磨かれていったのでしょう。医師になりたいという思いは次第に輝きを増し、浪人生活も経験しましたが、見事医学部に進学しました。

■学びを通じて広がる視野

授業は座学ばかりではありません。数時間は立ちっぱなしになる解剖実習には体力も求められます。「体力的、身体的な面から、私は積極的に参加できないのですが、それ以外では遜色なく、勉強する場を提供してくださっています」と、周囲のサポートに感謝する塩谷さん。

学外の医療施設へ出向いて学ぶ授業では、現場の医師の働きぶりを見て、「障がいを持ちながら自分はどういう風に働いているのか」についても少しずつイメージが湧いてきました。

と同時に「世の中にはさまざま



1学年100人強の中で女子学生は2割ほど。人気者の塩谷さん

まな病気があり、それを抱えながら生きている人たちがいる」ことをあらためて実感。自分の経験も医療に活かしていかれたらと思うようになったそうです。

■障がいを言い訳にしない

大学にはたくさんの友人のみならず、弓道との出会いも待つ



キャンパスの一番奥まったところにある弓道場。医学科、看護学科が一緒になって月2回の試合に向けて練習に励んでいます。「以前は引っ込み思案で、まさか責任者を担うなんて考えられなかった」という塩谷さん。「今までいろんな方に支えられた、その恩返しです」と話してくれました



学生ロビーでお話を伺いました

ていました。入学直後の新入生勧誘イベントで、ちょっとした記念のつもりで挑戦した試し引き。「的には当たらなかつたんですけど、身体を動かせることにうれしくなりました」
運動少女の血が甦った瞬間でした。「健常者と同様に弓を引けるし、対等に戦える競技だから」と、弓道の魅力を語る口調も自然と熱を帯びます。
部員約50名を誇る同大でも最大の部活動ですが、車いすの競技者は過去になし。しかし塩谷さんの入部希望に、先輩や師範

時間があれば弓を引くようにと心がけている塩谷さん。今や2段の腕前で、女子部員の代表責任者も務めています。それ뿐만 아니라かの形で部に恩返ししたいという思いから、目下の目標は3部リーグへの昇格です。
「いま弓道は自分の大きなエネルギーになっていきます。やりたいことを応援してくれる人がいることは、ほんとうに心強い。支えてくれる人がいるのだから、障がいや言い訳にせず挑戦することが大切だと思っています」
将来どのような医師を目指すのか、まだ明確に決めてはいませんが、やはり思い浮かぶのは、かつて自分の主治医だった神経内科の女性医師。病気のことでだけでなく、さまざまな相談事にものる臨床医でした――。
夢を射貫くその日に向けて、塩谷さんの精進は続きます。



自習は図書館が多いと塩谷さん

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 17

枝豆の脱莢機を導入して

出荷量が2倍以上アップ！

社会福祉法人 ゆずりは会
障害福祉サービス事業所 ゆずりは
就労継続B型（群馬県前橋市）

春に若葉があらわれると古い葉が譲るように落ちると知られている、ゆずりはの木。その名を事業所名とし、農業を通じて高工賃・就労支援に取り組んでいる事業所があります。地域の関係者たちとも協力しながら頑張っている施設を、真夏の群馬に訪ねました。

稼げる農業で自立を支援

8月の陽射しを浴びて、一面の緑はみずみずしい輝きを放っていました。そのなかを利用者さんたちは汗をかきかき、収穫に励みます。枝豆の収穫は最盛期の終盤。今日も豊作です。

しかし、作業はこれで終わりではありません。出荷には、さやを枝から外し、洗浄。袋詰めしなければなりません。
「ゆずりは」は障害者自立支援法のスタートとタイミングを合わせ2006年、前橋市青梨子町に開所しました。

青梨子町は市の北西部。榛名山のすそ野に位置し、肥沃な土地は農作物の栽培に適することから、近隣は露地栽培を主とする農家が目立ちます。

福祉に関心のあった関根嘉明理事長は、かねてより実家の農作業の補助に、障がい者を雇用するなどしており、農業を柱とした施設運営のアイデアを温めていました。また、地域は近代こけしの製造が盛んなことから、この2事業を中核事業とする「ゆずりは」を、いち早く自立支援法に則るかたちで立ち上げたのです。こうして高工賃と就労支援を目標とする活動が始まりました。

障がいにあった出荷体制の完成

高工賃を実現するためには、出荷量の増加が欠かせません。今年7月の枝豆の総出荷量は約3t。なんと昨年の倍以上を達成しました。多い日で200kg近く。少ない日でも100kgを日々出荷しまし



事業所の正面で全員集合、うしろから2列目右が群馬支部飯島執行委員長



利用者さんに作業を教わる飯島執行委員長

労働組合支部執行委員長

助成先 訪問 シリーズ 12

僕らのカンパは確実にひとを笑顔にしている



●ヤマト運輸労働組合群馬支部執行委員長 飯島良仁さん

農業には興味があって自分自身も好きなんです。彼らに教えてもらいながら、いっしょにすることで、彼らの真剣さがひしひしと伝わってきました。

と同時に私事です。おがくずを固めてつくる固形燃料の工場をかつて祖父が営んでおり、障がい者の方といっしょに寝泊まりして、仕事を教えたりしていました。そんなわけで今日は、懐かしい親しみのようなものも感じることができました。

小倉初代理事長のスピリットをあらためて職場の隅々にまで伝える意義を強く感じましたが、一方でひとは実際に見たり聞いたりしないと、なかなかピンと来ないのも事実です。

僕らの気持ちを集めたカンパで、どんな機械が導入されて、どう役に立っているのか。もっと多くの人に知っていただきたいです。



枝豆脱莢機の導入で出荷量が2倍以上に

た。この劇的な変化の契機になったのが、当財団の助成を利用して導入した枝豆脱莢機です。「枝豆は状態によって、良いものからABCの3つのランクに分けられるのですが、この機械を使うと、豆を痛めることなく枝からさやを自動的ににもぎ取るとともに、



10名程度でラインを組んで、A品B品を選別

C品に関しては弾いてくれますので、後の選別の手間がだいぶ省けました」と説明してくださったのは就労継続支援部長の小出明広さんです。しかし、効果は単にそれだけに留まらなかったといえます。障がいのある方にとって、各ランクの特徴を理解し、同時に選別してい

事業の多角化で さらに先を目指す

現在の(へゆずり)では年間を通

くことは得意なことではありません。中には混乱して、むしろ混ぜてしまうようなこともあったそうです。「脱莢機にかけたあと、A品だけを拾う人、B品だけ拾う人と役割を分けてラインを組むようにしたら10人前後でも、効率的にきちんと整理ができるようになりました。最初はこれが分からなくて苦労しました」と、生活支援員の小淵久徳さんもうなずきます。

こうした体制が確立されてからは、出荷先のJAでも品質を誉められるようになり、信頼につながっている実感しています。そして、タマネギ、ブロッコリー、枝豆、ホウレンソウなどを4haの畑を利用して輪作するほか、リスクヘッジの目的でタマネギの皮むき・カット加工、除草作業やウォーターサーバーの洗浄作業なども受託しています。また、新しく始めた稲作を足がかりに、アルファ米の販売を軌道に乗せ、6次産業化を



企画指導部の小出明広さん(右)、小淵久徳さん(左)



選別後は洗い、乾燥、袋詰めをして出荷

A品B品の特徴を分かりやすくまとめた手製のポスター。これでルールを共有



誰もが自立して地域で暮らすことのできる環境を。そんな当たり前のことが(へゆずり)のゴールです。誰かが自立して地域で暮らすことのできる環境を。そんな当たり前のことが(へゆずり)のゴールです。昨年度の売上は約1300万円と躍進し、開所当時は2万3000円だった平均工賃も3万円を超えました。もっとも高額の工賃を得ている人は5万4000円となりましたが、(へゆずり)の目標は「あくまで平均工賃5万円。それと就職できる方は地域で働けることが一番なので、就労移行にも信念を持って臨んでいきたい」と小出さん。

『ジャンプアップ助成金』の助成事業所が決定しました

さらなる給料増額へ、

7事業所のジャンプアップを支援

平成25年度助成事業

ヤマト福祉財団では、従来の「福祉助成金」に加え、障がい者の給料増額の助成に特化した「障がい者給料増額支援助成金」を行っています。
この支援の一つ『ジャンプアップ助成金』の対象は、平均給料月額2万円以上、総事業費500万円以上の事業を平成26年3月までに開始する事業所です。
平成25年度は、次の七つの事業所に上限500万円の助成を行うことに決定しました。

障がい者給料増額支援助成金

●助成金上限500万円 『ジャンプアップ助成金』
※昨年度のレバールアップ助成金を名称変更しました。

●助成金上限100万円 『障がい者給料増額支援助成金』
※昨年度のスタートアップ助成金、ステップアップ助成金を一つにしました。39号にて助成先を掲載しています。

就労継続B型

ワークセンター 日和山 (新潟県)

●平成24年度平均給料…30,007円 ●平成27年度目標給料…34,500円



高齢者施設の私物クリーニングに対応できる新システムを導入
『日和山』では、クリーニング事業を主力に、菓子製造、縫製、喫茶などを行っています。その中で、今後の需要拡大が見込めるのが、高齢者施設の私物クリーニングです。そこで、私物専用の乾燥機を購入し、さらなる給料増額を目指すことにしました。私物クリーニングを個別に回収・仕上げを行える新システムの導入により、持ち主不明などのトラブルを解消。作業効率も上げて売り上げアップを狙います。

就労移行・就労継続B型

第1レンコンの家 (千葉県)

●平成24年度平均給料…37,663円 ●平成27年度目標給料…50,000円



運搬用トラックと紙枚数計数機でDMの受注量を増大
DMの封入封かん作業を主事業にする『第1レンコンの家』は、実践塾の先駆けである新堂塾で『効率アップのためのライン化と働く環境の整備』を学び、右肩上がりに売り上げを伸ばしてきました。

さらに、給料増額を目指すため、資材の引き取りや納品に使うトラックと紙枚数計数機の導入を計画。現在1日6000通のDM出来高を8000通まで引き上げ、創設時から目標とする給料50000円の達成に挑みます。



就労継続B型

野田川共同作業所 (京都府)

●平成24年度平均給料…29,417円 ●平成27年度目標給料…24,810円
(九条ネギ部門 // 40,734円 // 46,000円)



九条ネギの育苗ハウスを設置し、仕事と収穫量を拡大
『野田川共同作業所』の主な事業は、九条ネギ栽培・販売、お弁当製造・販売、下請け作業です。下請け作業の中の一つは、10年間続いた作業で高い収益もあげていました。しかし受注先が中国へ移転することになり、仕事が大幅に減ることが予想されます。『野田川共同作業所』は、その分を挽回するべく、九条ネギの生産に力を入れることにしました。

京都府は九条ネギを京都の農産物を代表するブランドにする施策を進めています。『野田川共同作業所』でも休耕田を活用し、7棟のハウスで栽培を行い、都市部のデパート、地元のスーパや飲食店などに販売。しかし、山陰地方特有の気候により、夏期・冬季の収穫量は大幅に減少することが課題です。新たに育苗ハウスを設置することで年間を通して収穫量・売り上げのアップを図ります。



就労継続B型・生活介護

地域作業所 hana (千葉県)

●平成24年度平均給料…25,100円 ●平成27年度目標給料…32,500円



カフェとシヨップの複合事業で利用者さんに新しい仕事を創出

古い英字新聞を素材にしたエコバッグ、トップパティシエ監修の焼き菓子など、ものづくり中心の事業を行う『hana』。しかし、ものづくりが得意な利用者さんばかりではありません。各人の特性に応じた新しい仕事を創出しようとして、飲食店の開設を計画しました。ここでは健康志向のランチを提供。利用者さんが製造に関わる厳選した雑貨の販売スペースも設け、地域の方に愛されるおしゃれなカフェ&シヨップを目指します。

就労継続A型

農園 森のこびと (長野県)

●平成24年度平均給料…66,127円 ●平成27年度目標給料…80,000円



冬場も効率的に作業できる環境で農園の収入をアップ

『森のこびと』では、春・秋のハウレンソウと夏野菜の栽培が売り上げの中心です。朝日村は、700mの高地にあり、11月～3月の露地栽培が困難なため、その間は3棟のビニールハウスで作業しています。しかし、ここでは農業用水を使わず事業所からわざわざポリタンクで水を運ばなければなりません。助成で水道、農業用ハウス、物置など作業環境を整備し、年間を通して効率よく作業できるようにすることで、大幅な収入アップを狙います。

就労継続B型

ピアファーム (福井県)

●平成24年度平均給料…32,633円 ●平成27年度目標給料…41,400円



耕作放棄地を利用し、開墾 新品種のナシ栽培に取り組み
ナシ、ブドウ、野菜の生産販売を行い、農産物直売所も3店舗を運営する『ピアファーム』。特にナシの生産販売は順調で、創業以来、着実に売り上げを伸ばしてきました。そこで現在のナシ園1.8haに加え、新たに耕作放棄地52aの開墾を計画。福井県にない新品種のナシを育成、生産販売を行い、また栽培に必要な施設を整備し給料増額を目指します。この事業は、後継者不足に悩む福井県の果樹産業の活性化にも役立つと期待されています。

就労継続B型

ワークハウス 塩寄苑 (長野県)

●平成24年度平均給料…23,436円 ●平成27年度目標給料…31,000円



軌道に乗ってきたシイタケ栽培、新ハウスにも栽培設備を整備

市の委託によるペットボトルの再資源化業務などを行っている『塩寄苑』。昨年4月には市のハウスを2棟借用し、その1棟でシイタケの自主生産業務もはじめています。1年半が経ち、シイタケ栽培の知識、技術も身に付き、品質も評価されて事業は軌道に乗ってきました。そこで、もう1棟のハウスも菌床シイタケ栽培用に整備することを計画。今後必要が期待できるシイタケ栽培で売り上げを伸ばす計画です。

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

仕事に参加した。その気持ちをも、持ち帰って欲しくて。

東京都の多摩地域の東端に位置する三鷹市。都会と豊かな自然が共存する、このおだやかな公園都市に、「すきっぷ」があります。一人では配達できない人にも、仕事を体験して欲しい。その想いで、2005年からメイトさんと職員との共同作業でのメール便配達を開始。今年、配達エリアが一気に拡大して奮闘する「すきっぷ」取材しました。



「すきっぷ」がメール便配達を始めたのは、ヤマト運輸からの声かけがきっかけでした。当時施設は、障がい児の放課後活動のなかよし教室を運営していました。しかし、「障がい者のメール便配達事業」などの取り組みを知った保護者から、子どもたちの卒後の場が欲しいという声がかかります。そして「すきっぷ」を立ち上げる運動に繋がっていったそうです。

最初は、坂や階段、ポストの位置など、戸惑うことばかり。その中でもいちばん困ったのは番地です。「1日目は、何冊も配らないうちに施設に戻るはめになりました。このあたりは番地の並びが複雑で、わかっていないと住所がすぐに見つからないのです」（藤嶋さん）

団地中心の配達から、一転。

当初の配達先は、ほとんどが団地の中でした。「団地の配達は、正直ラクでした。屋根はあるし、住所はわかりやすいし、名前が読めなくても、部屋番号で確認できるので、安心でした」職員の藤嶋寛英さんは、苦笑着で振り返ります。この後も、その後、この環境が特別だったことを思い知らされることとなるのです。

配達環境が、がらりと変わったのは、今年の2月。「すきっぷ」は、団地とは反対側の一般住宅地も担当することに。団地では、想像もなかった苦勞が、そこでは待っていました。

最初は、坂や階段、ポストの位置など、戸惑うことばかり。その中でもいちばん困ったのは番地です。「1日目は、何冊も配らないうちに施設に戻るはめになりました。このあたりは番地の並びが複雑で、わかっていないと住所がすぐに見つからないのです」（藤嶋さん）

朝、メール便の仕分けは、職員が中心に行います。その日のメール便にもよりますが、3人ひと組の2人が、始まったのです。

猛暑の中の配達。でも、なぜか楽しそう。



仕分け作業。まず、職員の藤嶋さんが基本の仕分けを行います。そして、「これはここに」と指示しながら、簡単な作業はできるだけみなで行うようにしています。



●西東京主管支店 三鷹牟礼センター

面積1.69Km²/人口19,172人/世帯数9,412世帯

●特定非営利活動法人なかよし会 多機能型事業所「すきっぷ」

知的障がいなど、さまざまな障がい者が利用。2005年からメール便配達事業を開始。メイトさんは約4名。1日の平均配達数、約200冊。その他の活動は、革細工、キルトの制作、牛乳配達、販売実習、絵画創作など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

参入施設数 316施設 従事者数 1,624人 (2013年8月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 メール便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

井の頭公園近くの道を歩いて配達する、メイトさんの島田竜一朗さん(右)、松本悠さん(左)、職員藤嶋寛英さん(中)、島田さんは、マイペースでいつも楽しそう。マニアクなところがあり、エジプトの壁画やアフリカの動物など、さまざまなお話に詳しいのだとか。読書や映画など多趣味。街を見物するのがうれしいと話します。松本さんは、配達するのが楽しい様子で、メンバーの中でいちばん休みません。体力がアップして、見学に来た学校の先生から、君は鍛えているねえ、と言われたそう。雨の日も、率先して出かけていきます。

ループで、主に午前住宅地方面を、午後団地方面を配達します。配達はずべて徒歩。スタート時は、1日10冊にも満たなかった配達数も、2010年には月に4~500冊。現在では、月間3~4000冊を配達するまでに。この3年で、なんと10倍近い冊数を配達するようになりました。

「仕事というのは、雨の日も風の日もやらなくてはいけないから大変だと、よくわかりました」と藤嶋さん。今年は猛暑で、外を歩くのはきつい作業でした。重い荷物を持ち続けるのも、経験したことのないことです。しかし、不思議なことに、やりたくないと言いつつも人はいなくなっています。

室内ではあまりしゃべらない人も、配達に出で一歩歩いていると、自分の話をよく話すそうです。外の開放的な空気が、なにか気持ちに作用するのでしょうか。

「配達に出かけるのが、みんな楽しそうなんです。まだ、こちらの仕分けが終わっていないのに、身支度を始めて待っているんです。ちょっと待って、待って、つて頼むのもしよつちゅうです」と藤嶋さんは笑っています。

参加することが、テーマ。

配達、メイトさんによって、役割をいろいろ変えています。基本、



メール便を渡してもらう松本悠さん。指示された配達先のポストに入れます。少しずつポストの位置も、つかめてきました。



2005年に始まった、団地での配達。車イスの中込裕馬さんは、スタート時に、いちばん積極的に参加していたメンバー。今も、声かけすると一緒に回ってくれるそうです。

配達先を特定するのは職員。メイトさんと配達先のそばまで行き、2軒先のポストに入れてきて、と指示したり。ポストの口まで職員が手を添えて、最後は手を押すような形でポストイングすることも。荷物を運ぶのも大事な仕事だからね、とか、メール便は君の仕事なんだよ、と職員がメイトさんに声をかけながら仕事をしているといっています。



今、いちばん経験の長い細田俊幸さん。最初は、体調を壊したこともありましたが、復帰したいという気持ちでまた配達を始めました。みんなと仕事をするのが、楽しいと話します。日本ハムファイターズが好きで、宝くじを当てて、北海道での一人暮らしが夢。



配達3年目の、橋本暁史さん。部屋番号を見て、自分でポストイングができるように。メール便は楽しいので、続けたいそうです。絵を描くのが得意で、個展も開く予定。いつも、大丈夫、大丈夫、と言って支えてくれる「すきつが」に感謝したいと話します。

「メール便配達の後、彼らは他の活動と違って、ひと仕事終わったという感じなんです。達成感みたいなものを、持っているのではないのでしょうか」と、話すのは石田武継施設長代行。職員の八町綾生さんは「お仕事ができる喜びを、みんなに感じてもらいたい」と言います。

「傍から見ると、ほとんど職員が配達しているようにしか見えなくても知れません。しかし、1人では配達できない人にも、仕事をするという気持ちを知って欲しい。仕事に参加したという経験を、持ち帰って欲しいんです」と、藤嶋さん。重度も軽度の障がいも関係ない。やりたいという人に、参加してもらっていますと、熱く語ります。

「傍から見ると、ほとんど職員が配達しているようにしか見えなくても知れません。しかし、1人では配達できない人にも、仕事をするという気持ちを知って欲しい。仕事に参加したという経験を、持ち帰って欲しいんです」と、藤嶋さん。重度も軽度の障がいも関係ない。やりたいという人に、参加してもらっていますと、熱く語ります。

ヤマトがやる意味がある。

ヤマト運輸三鷹東支店 朝生活司支店長は、「ポストイングする前に何度も確認している姿を見ていると、誤配のないのがわかります。繊細で、きめ細かな仕事をしてもらっています。安心しきって、お願いしています」と、「すきつが」の仕事ぶりを評価します。

また、障がいの者のメール便配達事業について、西東京主管支店メール便課犬丸靖司課長は「クロネコメール便の配達を、障がいの者がやってくれている。素晴らしいことです。街

後列左から、職員 八町綾生さん、ヤマト福祉財団 東京支部 徳武範夫事務長、ヤマト運輸三鷹東支店 朝生活司支店長 西東京主管支店メール便課 犬丸靖司課長、職員 藤嶋寛英さん、石田武継施設長代行 職員 坂野勉さん、前列左から、松本悠さん、細田俊幸さん、橋本暁史さん、島田竜一朗さん、中込裕馬さん



に出て、人に見られる仕事だからこそ、この活動をヤマトがやる社会的な意味があると思います。お客様の理解が、あたりまえのことになるといいですね」と話します。

配達を続けていくことで、地元の人にとだけだけ認知してもらうのか、それが「すきつが」の今の課題です。「みなさんへのメール便が、彼らのような障がい者によって運ばれてくるというのは、ステキなことだと思っております」と藤嶋さん。たくさんの方に、そんなふう感じてもらいたい。「すきつが」の挑戦は、これからも続きます。

なくてはならない戦力の一員として頑張っています



主任の宮原 淳さんと鈴木重成さん(左)

まじめな仕事振りを評価され、半年で仕事を任されるようになった鈴木重成さん。担当できる仕事をもっと増やしたいと張り切っています。

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

■SBSゼンツウ株式会社 生協の物流センターの中継点として、顧客の注文に応じ冷凍品、冷蔵品をはじめ青果品などの商品を仕分け、配送します。社員は400名、ここで働く障がいのある方は10名。雇用率2.5%。



商品を詰めるコンテナが汚れていないか確認し、ベルトコンベアに流す



ダンボールや空コンテナを整理



回収保冷箱の天井を外し、集品準備の作業

鈴木重成さん SBSゼンツウ(株) 東都営業所(平成25年5月12日入社)
野菜づくりやマラソン、ピアノなど多趣味の鈴木さん。会社には自転車通っています。「会社であったことを毎日報告してくれるのを楽しみにしています」とお父さんは話しています。

障がいの有無は関係ない
やる気のあることが大切

鈴木さんの務めるSBSゼンツウ(株)東都営業所では、毎日大量に届く青果品、冷蔵品、冷凍品をお客様の注文に合わせて仕分け、ピッキングします。

鈴木さんが担当しているのは、不要になったダンボールの圧縮機への投入や空コンテナの整理、製品を詰める保冷箱に汚れがないかどうか確認して集品準備を行う仕事です。鈴木さんが入社したばかりの時は、上司からマンツーマンで指導を受けながら、一緒に作業をしていました。

「半年間、鈴木さんの仕事振りをみてきましたが、まじめで集中力もあり、いまでは大切な戦力の一員として安心して仕事を任せています」と話してくださるのはSBSゼンツウ(株)東都営業所の池田義人所長です。

鈴木さんは一生懸命すぎて、仕事のペースが早いことは良いのですが...

「時には全体の流れに合わせてできるとなおりますね。でもまじめで、性格が明るく、そして礼儀正しい姿は、同僚からも評価が高いです。仕事は入荷から出荷までの工程でたくさん仕事がありますので、やる気があればどんどん仕事を覚えて増やしていきます。障がいのある方の中には、能力はあるけれどもなかなか周りに馴染めないという方もいますが、鈴木さんは、協調性もあ

り、その点も安心です」と池田所長。「この仕事は楽しいです」と鈴木さん。お給料が出ると、家族みんなで食べようと大好物のお刺身を必ず買って帰るそうです。

定時社員として働く鈴木さんの勤務時間は9時～18時、休日は金曜・土曜、半年働いているので有給休暇も付与されます。休日には、ピアノに向かう鈴木さん。「蛍の光」が弾けるようになったと教えてくれました。

「時給、仕事の評価、待遇に障がいの有無は関係ありません。今後も適材適所で障がいのある方を雇用していくつもりです。大切なのは、働きたいという意欲。いやいや働いている人は長続きしませんからね」と池田所長は話します。

SBSゼンツウは創立以来長年に亘り、障がいのある方の雇用を行ってきました。中には20年以上勤続されている方もいます。

積極的に仕事を覚えて、東都営業所になくてはならないパートナーの一人として認められていく鈴木さん。その楽しさを、毎日家族に伝えていきます。



『夏のカンパ』から5000万円のご寄付をいただきました
ヤマトグループ社員のみなさま
ありがとうございました

ヤマト運輸労働組合第68回定期中央大会が9月12日、ザ・プリンス パークタワー東京(東京都港区)で開催され、その中で『夏のカンパ』の贈呈式が行われました。ヤマト労連をはじめヤマトグループ社員のみなさんから合計で6951万4000円が集められました。その『夏のカンパ』から、ヤマト福祉財団に5000万円のご寄付をいただきました。

有富理事長はあいさつで、障がいのある方が施設に通って働いた給与と障害者年金を合わせても年間で平均約90万円にしかならないことに触れ、ヤマト福祉財団はこの給料を増やすような支援をしていること。新しい

仕組みとして動き出している『夢へのかけ橋プロジェクト』、『夢へのかけ橋実践塾』を紹介しました。

「給料が2万円を超えると働き振りが変わり、5万円で生活が変わる。8万円で結婚するなど将来の夢を描く…こうなって初めて人生を楽しむことができるようになります。みなさんが一生懸命集めていただいたお金を、世のため人のために有効に使うことをお約束します」と、お礼の言葉を結びました。



ヤマト労連森下会長(写真左)から目録を贈呈される有富理事長

ヤマト自立センタースワン工舎羽田
スワンカフェ & ベーカリー羽田
CHRONOGATE店が
オープンしました

ヤマトグループの新しい物流ターミナル『羽田クロノゲート』の竣工式が9月20日、関係者1200名を集めて盛大に行われました。

この羽田クロノゲート事務棟1階で『ヤマト自立センタースワン工舎羽田』が10月1日より活動を始めました。利用者さんの定員は20名、クリーニングとビルメンテナンスの仕事しながら就労へ向けての訓練を行います。



スワン工舎羽田の新事務所



クリーニング用機材も整備され稼働したスワン工舎羽田



ヤマトグループの機能が集結し、止めない物流を実現する羽田クロノゲート

10月2日にオープンしたのが『スワンカフェ & ベーカリー CHRONOGATE店』です。羽田クロノゲートの入口にあるガラス張りの円形の建物で、3番目の直営店として営業を始めました。ベーカリーをはじめ、パスタやピザ、シェフが腕をふるう自慢の創作料理などを提供。当日はあいにく台風による雨でしたが、地域のみなさんが行列する、盛況のオープンとなりました。



雨の中、オープンを待つお客さまの行列ができました



2000個用意したパンが瞬間に売れていきました



ガラス張りの明るいカフェスペース



ピエール＝オーギュスト・ルノワール『ブージュヴァルのダンス』 1883年/油彩、カンヴァス/ボストン美術館蔵
Dance at Bougival, Renoir, oil on canvas, Picture Fund
Photograph©2013 Museum of Fine Arts, Boston



Information of the Art

光の賛歌 印象派展

パリ、セーヌ、ノルマンディの水辺をたどる旅



モネ『アールヴィルの断崖』
1882年/油彩、カンヴァス/
東京富士美術館蔵
Seashore and Cliffs of
Pourville in the Morning

開催期間▶2013年10月22日(火)～2014年1月5日(日)
休館日▶月曜日、年末年始(12月27日～1月1日)(ただし11月4日、12月23日は開館、11月5日、12月24日は休館)
開催場所▶東京富士美術館
●バス

JR八王子駅北口・西東京バス口12番のりばより(平日・土曜の始発から12:27発までは14番のりば)・京王八王子駅・西東京バス4番のりばより、いずれも創価大正門東京富士美術館行き/創価大学循環 創価大正門東京富士美術館前下車

開館時間▶10:00～17:00 ※入館は閉館の30分前まで

入館料▶

	大人	大高生	中小生	未就学児童
当日	1,200円	800円	400円	無料

- 土曜日は中小生無料
- 誕生日当日来館の方は本人のみ無料(証明書を提示ください)
- 障がい者、付添者1名は半額料金(証明書を提示ください)

問い合わせ先▶
展覧会公式ホームページ <http://www.eventsankei.jp/inshoha>
主催▶東京富士美術館、産経新聞社
後援▶外務省、文化庁、アメリカ合衆国大使館、オーストラリア大使館、カナダ大使館、スイス大使館、ドイツ連邦共和国大使館、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、ブリティッシュ・カウンシル、八王子市、八王子市教育委員会、サンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイビジネスアイ、SANKEI EXPRESS
特別協賛▶凸版印刷株式会社、三菱UFJ信託銀行株式会社
協賛▶王子ホールディングス株式会社、清水建設株式会社、新菱冷熱工業株式会社、野崎印刷紙業株式会社
協力▶日本航空、NHKエデュケーション、ヤマトロジスティクス
巡回情報▶福岡展 福岡市博物館 2014年1月15日(水)～3月2日(日)
京都展 京都文化博物館 2014年3月11日(火)～5月11日(日)

世界の有名美術館から 印象派の名画が集結
この展覧会は、アメリカのボストン美術館、ワシントン・ナショナル・ギャラリー、フランスのオルセー美術館、オランダのオランダ国立美術館、カナダのカナダ国立美術館等世界の有名美術館から印象派の名画約80点を展覧するものです。19世紀後半にフランスで活躍した印象派の特徴は明るい色彩表現と大胆な筆遣いであり、セーヌ川やノルマンディの水辺に集う市民の様子は彼らの創作意欲を掻き立てました。

ボストン美術館のルノワール『ブージュヴァルのダンス』
今回は主な画家として、モネ26点、シスレー16点、ピサロ8点、ブーダン6点、ルノワール2点、セザンヌ2点を展覧予定です。中でもボストン美術館所蔵のルノワール『ブージュヴァルのダンス』は同館の代表的な収蔵品であり今回の展覧会の目玉作品でもあります。この展示を始めとして、印象派の画家たちが追い求めた水辺における光の中の風景作品の数を堪能してください。
本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社が協力しています。

スワンのクリスマスケーキで家族がひとつに



カロリー50%オフのケーキも入っています!!
XCハッピー・ア・ラ・カルト 4,300円



トナカイのケーキに飾り付けできる楽しみも
XAハッピー・スワン 3,500円



小麦・卵・乳製品不使用のケーキはスワンの定番
XFハッピー・♡クリスマス 3,600円



ココアスポンジとチョコレームスを重ねた大人の味わい
XBハッピー・ショコラ 3,500円

今年も8種類のケーキが装いを新たに登場しました。来年がより良い年であることを願いつつ、スワンのクリスマスケーキを家族のみんなで味わってみませんか。口の中いっぱい幸せが広がります。



- 申し込み: 11/1～12/5
- お届け日: 12/20～12/24

★11/15(金)までご注文いただいた方に抽選で200名様に『レゴブロック』をプレゼント!

○ヤマトグループ社員のみなさん、作業所さんには優待価格があります。ご予約いただいたケーキはご自宅までお届けします。

○作業所からもご予約できます

(株)スワン本部 担当:佐藤まで

TEL:03-3543-1067 <http://www.swanbakery.jp/>

※価格はすべて送料・税込です



読みやすさを追求した書体

